

倉田ましろと白鷺千聖とお誘い

仲田 ナカミ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

透子ちゃんにドタキャンされた倉田ましろ！1人公園をふらついでるとレオン君と散歩に来てた白鷺先輩とバツタリ！もふもふのレオン君に心奪われたましろは千聖からのお茶会の誘いを受けることに！次回、「お、お茶会の作法とか全然分かんないよ……」ガルパスタンバイ！

目次

倉田ましろと白鷺千聖とお誘い

倉田ましろと白鷺千聖とお誘い

「はあく……大丈夫かな透子ちゃんのおばあさん……」

私、倉田ましろはこの休日に同じ学校でバンドを組んでる桐ヶ谷透子ちゃんとお出かけする予定だった

　　だけど透子ちゃんのおばあさんが倒れたらしく……今こうして一人ふらふらしている

「この辺あんまり一人じゃ来ないし、ちよつと不安だけど……時間あるし少し歩いてみようかな……」

「わ、大きな公園……。一周まわるだけで疲れそう……。でも暇だし……」

「あら？そこでもじもじしてるのは……。確か倉田ましろちゃん……だったかしら？」

「ワンツ！」

「わ、わっ！……い、いぬっ……!!!」

「だ、大丈夫よ。そんなに怖がらなくても。ほらレオン、おすわり」
「クウーン」

「こ、腰が……。抜けちゃった……」

「立てる？」

「あ……。えと、ありがとうございます……」

　　あなたは……。あつ、ぱ、パスパレの……」

「白鷺千聖よ。ごめんなさいね、ウチのレオンが驚かせてしまつて」

「あつ、いえ……。だ、大丈夫です」

「倉田ましろちゃん、よね。月ノ森のMorfonicaの」

「は、はい……。そうです」

「こんなところで一人でどうしたの？」

「あつ、えつと、と、透子ちゃんと遊ぶ約束だったんですけど、あつ、透子ちゃんはおも、モニカの子で……。それでっ、えーつと……」

「お、落ち着いてあつ、ましろちゃん。一つずつ聞いてあげるから。」

「……あ、ごめんなさい、ましろちゃんって呼んでしまったけれど良かったかしら？」

「は、はいーいえ、ぜんぜんっ！……うれしいです」

「そう……。なら良かったわ。」

「それでましろちゃんはどこで何を？」

「はい……。実は――」

かくかくしかじか

「そうだったの。それは心配ね、桐ヶ谷さん」

「はい……。でも透子ちゃんは『シロまでジメジメしてつとアタシの申し訳なさが倍増するから！……つてドタキャンする奴のセリフじゃないか！』つて笑ってたので……」

「良い友人を持つてるわね。……それでましろちゃんはこの後は何かあるの？」

「い、いえ……。今日は一日透子ちゃんと遊ぶ予定だったので」

「そう……。じゃあ私とお茶しないかしら？」

「えっ……。？」

「あ、ちよつと誘い方に語弊があつたかもしれないわ。少し説明させてちょうだい」

「は、はい……」

「実はこの後花音、『ハロー、ハッピーワールド！』ドラマの松原花音つて子と喫茶店でちよつとしたお茶会をする予定だったのだけれど、もしよければましろちゃんも一緒にどうかしら」

「えっ、でも、そ、そんな急にお邪魔していいんですか……？」

「ええ。花音もきつと喜ぶと思うわ。ましろちゃん良い子なもの」

「えっ!? ええ……。そ、そんなことは、ない、ですよ……」

「ふふ。真逆ね……」

「な、何か……？」

「いえ、何でもないわ。それで、一緒にお茶してくれるのかしら？」

「は、はい……。じゃっ、じゃあ、お邪魔します……」

「ありがとう。じゃあ行きましょうか」

「いえっ！、は、はいっ……！」

(ごめんなさいね、先輩の我儘につき合わせちゃって……でもどこか『ほつとけない空気』が出てるのよね……誰かさんみたいなの……)
(ううう……お誘いについ乗っちゃったよ……嬉しかったけど……私、お茶会の作法なんてわかんないよう……！)

「ワンツ!!」

「わっ!!」

「……」

「ふふっ……」

「あはは……っ」